

県内経済は、世界的な景気後退や急激な円高などがもたらす経営環境への影響から生産活動が減少、ならびに企業倒産や雇用情勢の一段の悪化などから個人消費も低迷し、悪化している。

1. 平成20年11月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は飲食料品の伸びに支えられ2ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、軽自動車は増加したが、大型、中小型乗用車がともに大幅に減少し全体では4ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、前月比、前年同月比ならびに四半期指数がいずれも低下し急速に落ち込んできている。投資動向をみると、公共工事は、請負金額が5ヵ月連続で前年を上回ったが件数は3ヵ月ぶりに前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、改正建築基準法の影響で減少した前年の反動などから棟数、工事費予定額がともに3ヵ月連続で前年を上回ったものの床面積は4ヵ月ぶりに前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家が増加したが、貸家、分譲住宅がともに大きく減少し全体では3ヵ月ぶりに前年を下回った。倒産状況は、負債総額10百万円以上の企業倒産件数が3ヵ月連続、負債総額が2ヵ月ぶりで前月を上回り、また福島県信用保証協会の代位弁済件数、金額も引き続き前年を上回るなど悪化している。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率がともに13ヵ月連続で前年を下回るなど一段と悪化している。

〔消費動向・基調判断 減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、身の回り品などが引き続き低調に推移したものの飲食料品が好調で2ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでも8ヵ月ぶりに前年を上回った。乗用車新車販売は、軽自動車が増加したものの、大型車、主力の中小型車がともに低迷し全体では4ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、被服及び履物以外の主要費目が下降し前月比 $\Delta 1.1\%$ と2ヵ月連続で前月を下回ったものの前年同月比では15ヵ月連続の上昇となった。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、洗濯機、冷蔵庫などは前年並み、薄型テレビ、DVDレコーダーがやや低調、携帯電話、パソコン、デジタルカメラなどは低迷しており、全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、園芸用品、ペット用品などは好調、カーレジャー用品は前年並みだったがDIY商品などが低調に推移したことから全体では前年をやや下回る水準で推移した。旅行取扱額は、個人の国内旅行は景気後退の影響もあり減少傾向が強まっている。

〔投資動向・基調判断 減少〕

公共工事は、請負金額が5ヵ月連続で前年を上回ったものの、件数は市町村からの発注減により3ヵ月ぶりに前年を下回った。累計でも件数、請負金額がともに前年同期比で下回っており水準は低い。10月の建設着工（民間・非居住用）は、棟数、工事費予定額がともに3ヵ月連続で前年を上回ったが、床面積は4ヵ月ぶりに前年を下回った。新設住宅着工戸数は持家が2ヵ月ぶりに前年を上回ったが、貸家、分譲住宅がともに前年を大きく下回り全体では3ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動・基調判断 減少〕

10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、99.8（前月比 $\Delta 2.7\%$ ）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。また、平成20年第3四半期（7～9月）は103.7（前期比 $\Delta 3.6\%$ ）と再び低下した。原指数は、105.2（前年同月比 $\Delta 9.2\%$ ）と3ヵ月連続で前年を下回った。大口電力販売量は、非鉄金属、化学などで増加、電気機械、輸送用機械、一般機械などで減少し全体では前年同月比2.3%減と平成15年7月以来の前年を下回る結果となった。

〔企業倒産・基調判断 悪化〕

負債総額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が3ヵ月連続、負債総額が2ヵ月ぶりでともに前年を大きく上回った。福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数が10ヵ月連続、金額が5ヵ月連続でともに前年を上回るなど倒産状況は悪化している。

〔金融動向・基調判断 低調〕

11月末の預金残高は前同月比 $+2.5\%$ と21ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、前年同月比 $+1.3\%$ と低水準だった前年の反動から5ヵ月連続で前年を上回った。

〔雇用動向・基調判断 悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）はともに13ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は0.82倍（平成14年6月の水準）、有効求人倍率は0.58倍（平成15年7月の水準）となり県内雇用情勢は一段と悪化している。

県内経済動向の概要

	項 目	平成20年 9 月		10 月		11 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	→	↗	→	↗	→	↗
	乗用車新車登録台数	↘	↗	↘	↗	↘	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	→	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	→	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↘	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	→	→	↗	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸 出 金	↗	→	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	→	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	→	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

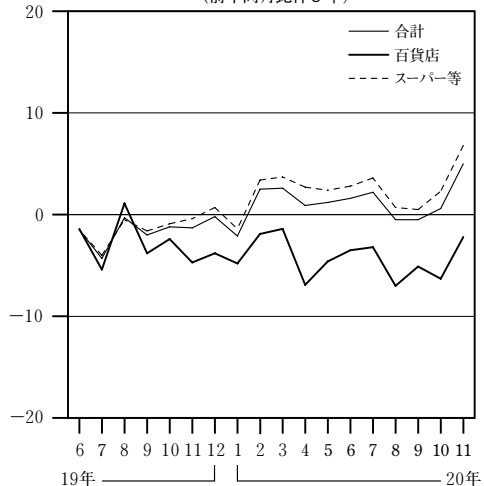
大型小売店 11月の県内大型小売店の販売額は、紳士・婦人服などの衣料品や身の回り品などが引き続き低調な推移となったものの飲食料品は好調で、全店舗ベースで192億59百万円（前年同月比5.0%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでも同2.9%増と8ヵ月ぶりに前年を上回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、飲食料品などは好調に推移したが、主力の紳士・婦人服などの衣料品を始め身の回り品などが低調に推移し全店舗ベースで37億4百万円（同2.2%減）と既存店ベース（同2.2%減）とともに15ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、身の回り品、衣料品などは低調に推移したが、主力の飲食料品が引き続き好調で家庭用品などの伸びにも支えられ全店舗ベースで155億55百万円（同6.8%増）と10ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでも同4.3%増と4ヵ月ぶりに前年を上回った。

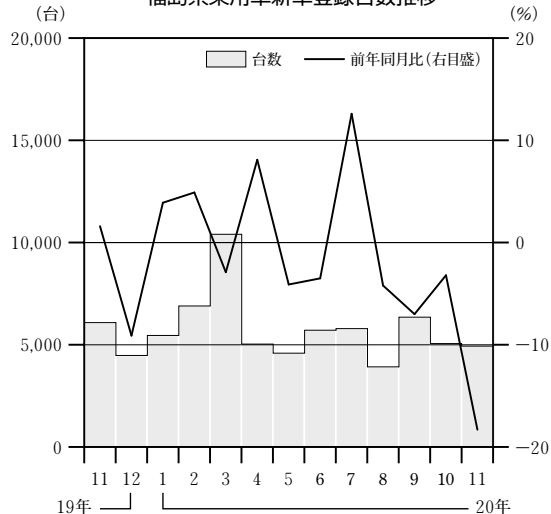
乗用車販売 11月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,016台（前年同月比18.3%減）と4ヵ月連続で前年を下回った。車種別でみると、大型乗用車が502台（同37.4%減）、主力の中小型乗用車が2,401台（同27.9%減）と、ともに4ヵ

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

月連続で前年を大きく下回った。一方、軽乗用車は2,113台（同5.5%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

11月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で8,342台（前年同月比15.8%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車で2,405台（同14.8%減）、中小型乗用車で3,092台（同20.7%減）、軽乗用車で2,845台（同10.6%減）といずれの車種も2ヵ月連続で前年を下回った。

消費者物価指数 11月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、102.2（前月比△1.1%）となり、2ヵ月連続で前月を下回った。

一方、前年同月比では+1.1%と15ヵ月連続して上昇した。

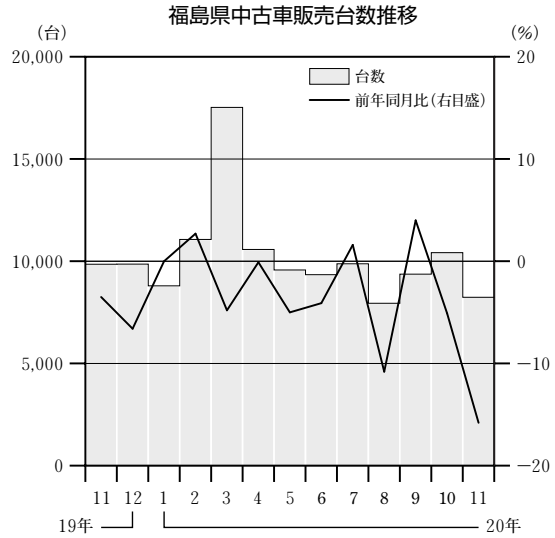
費目別の指数動向をみると、前月比上昇したのは、「被服及び履物」で110.8（前月比+2.4%）と3ヵ月連続で唯一前月を上回った。一方、前月比低下したのは、「交通通信」で99.8（同△4.0%）、「教養娯楽」で97.6（同△0.7%）と3ヵ月連続、「食料」で104.3（同△0.9%）、「光熱・水道」で111.2（同△2.5%）、「保健医療」で98.0（同△0.2%）と2ヵ月連続、「住居」で99.9（同△0.1%）、「家具・家事用品」で96.8（同△0.7%）と2ヵ月ぶりに、いずれも前月を下回った。「教育」は102.4で前月と変らなかった。

家電量販店 11月の売上状況は、洗濯機、冷蔵庫などは前年並み、薄型テレビ、DVDレコーダーがやや低調、携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、ビデオカメラなどは低迷しており、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

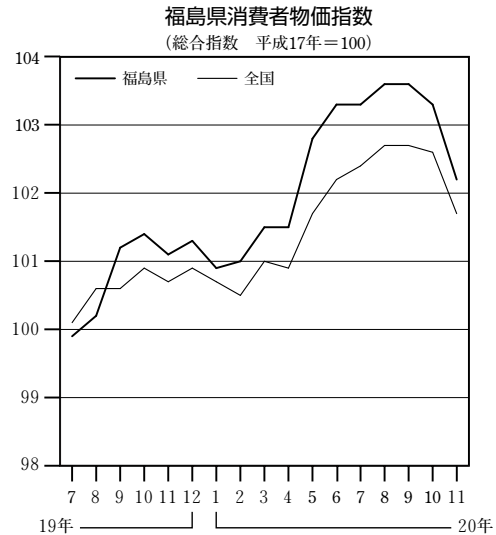
ホームセンター 11月の売上は、ペット商品、園芸用品などは好調、カーレジャー用品は前年並みだったものの、DIY商品や収納家具などが引き続き低調に推移したことから全体では前年をやや下回る水準で推移した。

旅行 11月の旅行取扱額実績は、国内団体・海外個人は前年を上回ったものの、景気後退の影響などから国内個人、海外団体は需要の減少傾向が継続した。

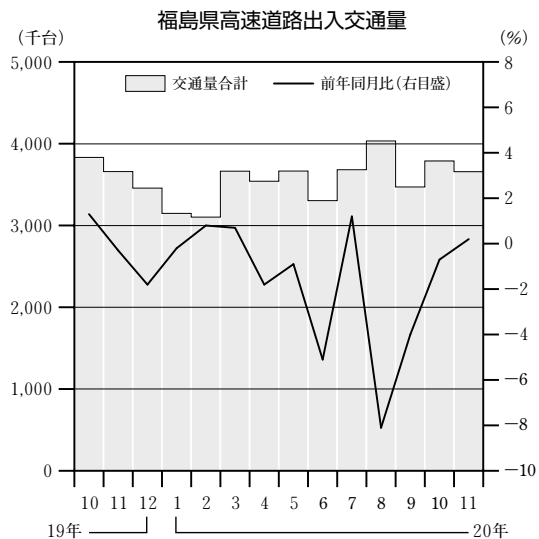
高速道路 11月の県内自動車道通過台数は3,680,693台（前年同月比0.2%増）と4ヵ月ぶりに前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

IC～国見 IC) は2,205,810台 (同0.5%減) と8ヵ月連続、常磐自動車道 (いわき勿来 IC～常磐富岡 IC) は682,513台 (同1.2%減) と13ヵ月連続とともに前年を下回った。磐越自動車道 (磐梯熱海 IC～西会津 IC) は529,172台 (同2.3%増) と4ヵ月ぶり、磐越自動車道 (いわき三和 IC～郡山東 IC) は263,198台 (同6.2%増) と2ヵ月連続で前年を上回った。

福島空港 11月の福島空港国内定期路線の利用状況は、35,515人 (前年同月比2.1%減) と減少幅は縮小したものの14ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は7,161人 (同5.2%減) と3ヵ月ぶり、大阪便は17,416人 (同17.6%減) と11ヵ月連続とともに前年を下回った。沖縄便は10,938人 (同67.1%増) と大幅に増加し3ヵ月連続で前年を上回った。一方、国際定期路線の利用状況は3,552人 (同47.9%減) と5ヵ月ぶりに前年を大きく下回った。路線別にみるとソウル便は2,923人 (同44.8%減) と10ヵ月ぶり、上海便は629人 (同58.7%減) と10ヵ月連続で、ともに大幅に減少し前年を下回った。

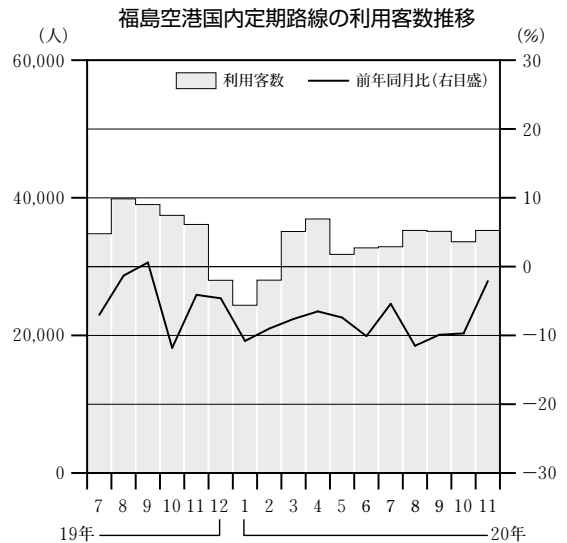
—— 投資動向 ——

公共工事 11月の公共工事前払保証取扱は、件数が577件 (前年同月比5.3%減) と市町村からの発注減により3ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、請負金額は147億38百万円 (同37.3%増) と5ヵ月連続、保証金額は58億50百万円 (同38.9%増) と2ヵ月ぶり、ともに前年を上回った。

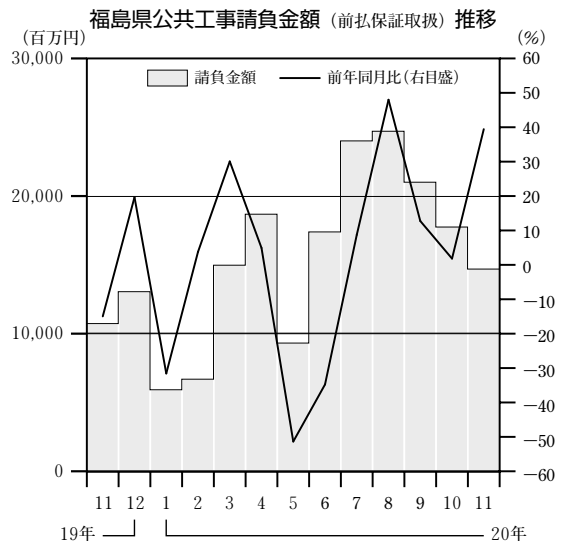
11月時点累計 (1月～11月) では、件数が前年同期比275件減少し5,401件 (前年同期比4.8%減)、請負金額が同17億18百万円減少し1,752億52百万円 (同1.0%減)、保証金額が同9億78百万円減少し668億38百万円 (同1.4%減) である。

主な発注者別の累計請負金額は、国が前年同期比33億42百万円増加し328億41百万円 (同11.3%増) となっている。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県が同117億62百万円減少し531億85百万円 (同18.1%減)、市町村が同24億25百万円減少し674億2百万円 (同3.5%減) となっている。

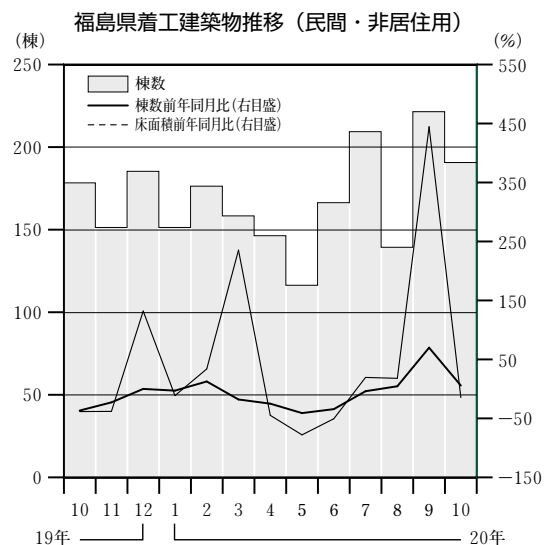
設備投資 10月の建築着工 (民間・非居住用) は、棟数が192棟 (前年同月比7.3%増)、工事費予定



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)

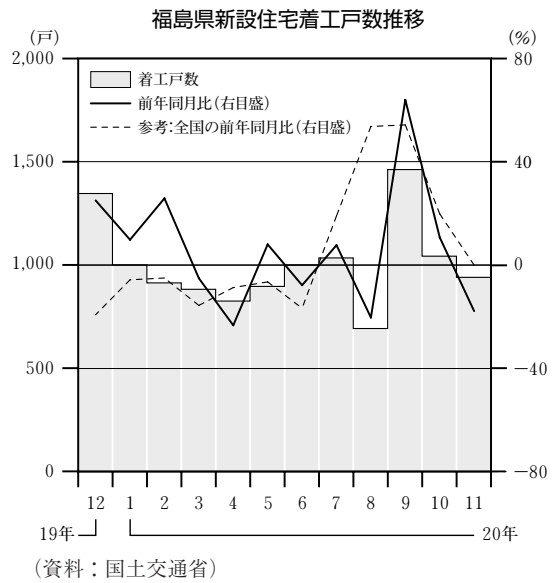
額が116億76百万円(同38.8%増)と、ともに3ヵ月連続で前年を上回った。床面積は76,276㎡(同13.0%減)と4ヵ月ぶりに前年を下回った。

11月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、665件(前年同月比23.3%減)と2ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1~3号建物(一定規模以上の建築物が対象)が149件(同18.6%減)、4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)が516件(同24.6%減)と、ともに2ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比11件減少し16件と2ヵ月連続で前月を下回った。

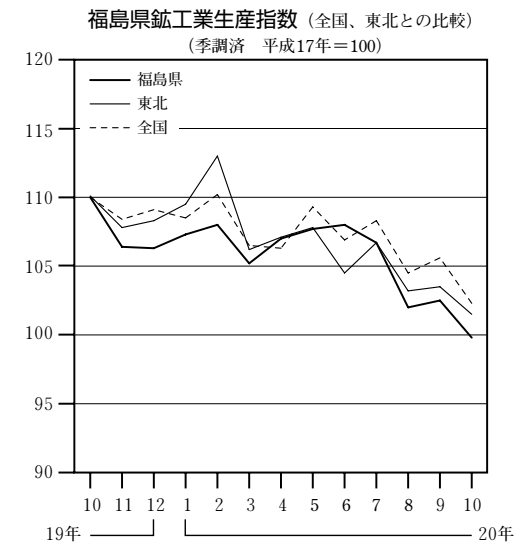
建築物着工の先行指標である11月の建築物申請件数は、660件(同28.7%減)と6ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1~3号建物は141件(同33.8%減)と2ヵ月連続、4号建物は519件(27.2%減)と6ヵ月ぶり、ともに前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は、前月比4件減少し16件と再び前月を下回った。
住宅建設 11月の県内新設住宅着工戸数は、946戸(前年同月比17.8%減)と大幅な減少となり3ヵ月ぶりに前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は501戸(同3.5%増)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、「貸家」は408戸(同28.9%減)と3ヵ月ぶり、「分譲住宅」は34戸(同63.4%減)と2ヵ月連続でともに前年を下回った。分譲住宅のうちマンションは2ヵ月連続で着工戸数がなかった。

—— 生産活動 ——

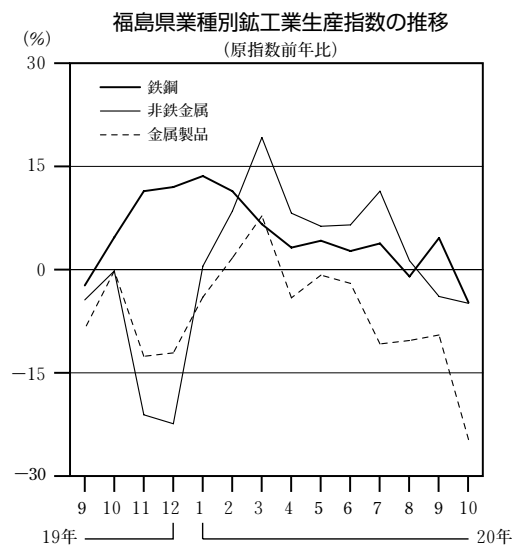
鉱工業生産指数 10月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると99.8(前月比△2.7%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。原指数は、105.2(前年同月比△9.2%)と3ヵ月連続で前年を下回った。上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)では、プラスチック製品工業で110.2(前月比+5.8%)、情報通信機械工業で118.1(同+4.9%)、木材・木製品工業で79.8(同+4.0%)など5業種が上昇した。一方、電気機械工業で92.9(同△22.3%)、繊維工業で61.1(同△15.6%)、輸送機械工業で81.4(同△13.0%)、金属製品工業で79.6(同△8.7%)となり15業種が低下した。



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

化学 11月の食品包装フィルム用合成樹脂は堅調だったものの、金属代替プラスチック、炭素繊維などは前年を下回る生産で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）および電子材料の生産なども前年を下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 11月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がともに前年を下回る水準で推移した。建機用は、大型は海外需要が通常水準に落ち着き、中型・小型は需要が薄れ減産となり前年を下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および海外需要に支えられ前年をやや下回る水準で推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連向けや船舶用バルブ部品向けにより前年並みの水準で推移した。

輸送用機械 11月の自動車用鋳造品の生産は、国内および先進国や新興国など海外の需要が大きく減退し前年を下回る水準で推移した。

電気機械 11月の変圧器、配電盤、電熱炉、自動車モーター、回転機などの生産は前年を上回る水準で推移した。

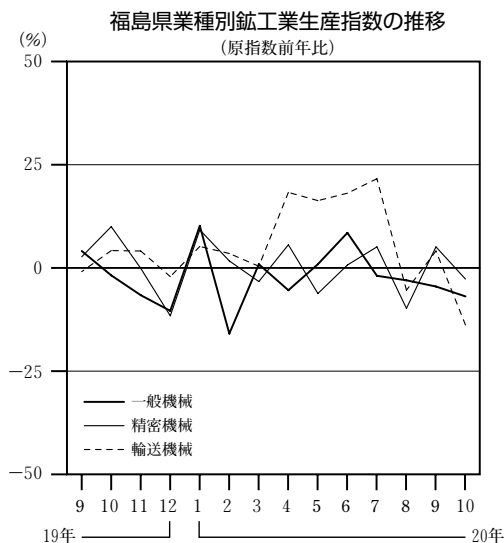
情報通信機械 11月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）向けなどは安定しているが、前年が高水準だった反動減もあり前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産も前年をやや下回る水準で推移した。

電子部品・デバイス 11月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、車載品、パソコン・OA、通信向け、携帯電話向けなどが前年を大きく下回る水準となった。

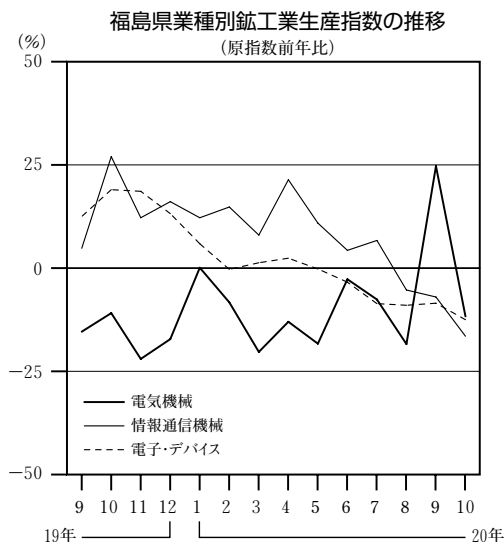
精密機械 11月の医療用内視鏡の生産は前年をやや下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは前年を下回る水準で推移した。

紙・紙加工品 11月の段ボールの生産は、前年を下回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙の生産は前年を上回る水準だったものの、ノーカーボン紙は前年を下回る水準で推移した。

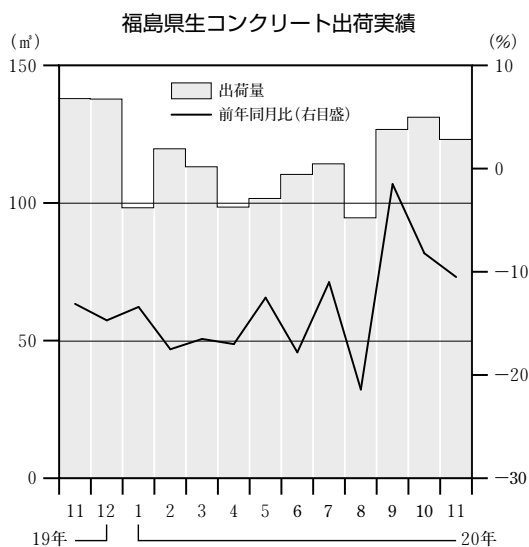
窯業・土石 11月の生コンクリート出荷量は、全体で123,771m³（前年同月比10.5%減）と13ヵ月連続で前年を下回った。増加地区をみると、官公需では県北地区で中央高速道路工事により増加し



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

た。民需は会津地区で工場新築工事、病院新築工事などにより増加した。

清酒 11月の清酒移出数量は、1,717kℓ（前年同月比12.6%減）と大幅な減少となり2ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が575kℓ（同0.2%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は1,142kℓ（同17.8%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。11月時点累計（1月～11月）では、特定名称酒が前年同期比3.7%増、一般酒が同5.4%減と、一般酒に比べ特定名称酒は好調に推移している。

合成繊維物 11月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

ニット 11月のニットの生産は、消費者の買い控え傾向の強まりから衣料品全般が低迷し、受注・生産は低調な水準で推移した。

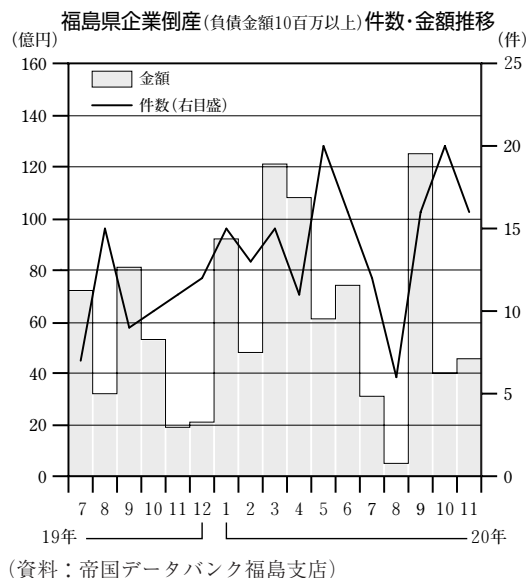
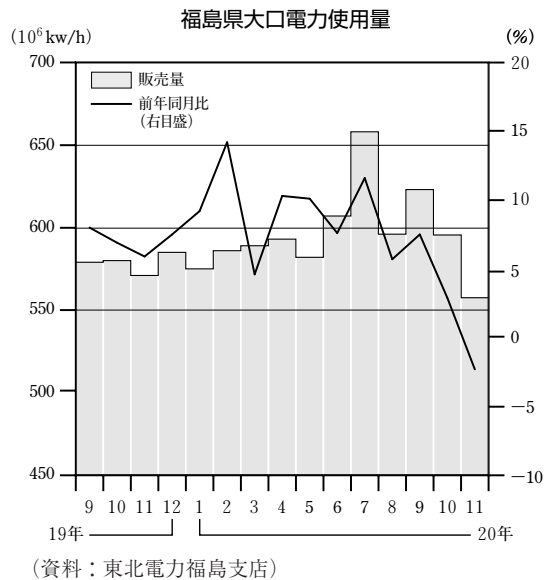
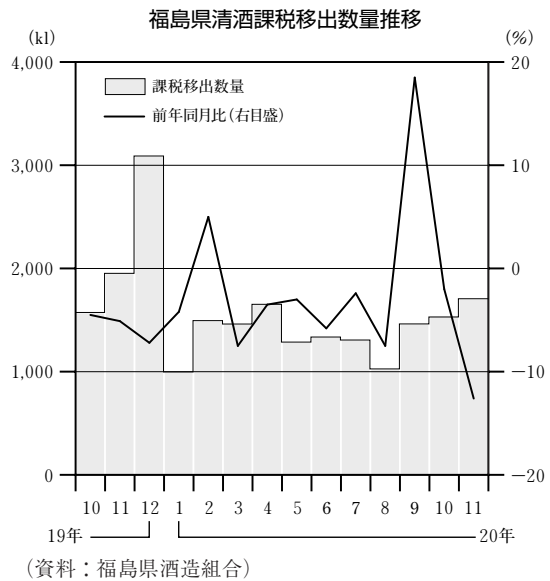
大口電力 11月の大口電力販売量は、558百万kw/h（前年同月比2.3%減）と5年4ヵ月ぶりに前年を下回った。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で118百万kw/h（前年同月比4.3%減）、「非鉄金属」で123百万kw/h（同23.5%増）、「化学」で60百万kw/h（同7.5%増）、「輸送用機械」で52百万kw/h（同15.5%減）、「一般機械」で27百万kw/h（同11.6%減）、「紙・パルプ」で19百万kw/h（同40.0%減）となった。

企業倒産

企業倒産 11月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が16件（前年同月比45.5%増）と3ヵ月連続、負債総額が46億23百万円（同141.7%増）と2ヵ月ぶりで、ともに前年を大きく上回った。

倒産主因別内訳は、受注・販売不振13件、業界不振1件、その他2件となった。業種別内訳は、建設業6件、小売業4件、運輸・通信業3件、製造業2件、サービス業1件となった。地区別内訳は、県北5件、県南5件、浜通り4件、会津2件となった。

11月時点累計（1月～11月）は、倒産件数が前年同期比39件増加し160件（前年同期比32.2%増）、



負債総額が同384億5百万円減少し751億10百万円（同33.8%減）となっている。負債金額10百万円以上の倒産状況は、件数が7月まで10ヵ月連続で二桁台を続け、8月は一桁台になったが、9月から再び3ヵ月連続で二桁台に乗るなど高水準で推移している。なお、負債総額は前年同期比で下回っているが、これは昨年4月に発生した大型倒産（負債金額636億円：パチンコ店）による反動減であり、実体は依然悪化傾向にある。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の11月末の預金残高は、6兆2,750億円（前年同月比2.5%増）と21ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,335億円（同1.3%増）と5ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 11月の保証承諾は、件数が1,133件（前年同月比0.6%減）と再び前年を下回った。保証金額は135億27百万円（同22.6%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

一方、代位弁済は、件数が78件（同13.0%増）と10ヵ月連続、金額が5億34百万円（同18.3%増）と5ヵ月連続でともに前年を上回るなど悪化傾向が一段と強まっている。

雇用動向

雇用動向 11月の新規求人数（原数値）は、8,348人（前年同月比25.8%減）と13ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、8,879件（同4.6%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。県内の雇用情勢は新規求職者の増加傾向の中で新規求人数の減少から一段と悪化傾向を強めている。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.82倍（前月比0.07_{ポイント}低下）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.94倍（前年同月比0.39_{ポイント}低下）と13ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.58倍（前月比0.04_{ポイント}低下）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.63倍（前年同月比0.27_{ポイント}低下）と13ヵ月連続で前年を下回った。

